



野球殿堂入り表彰式

館長 庄司正信

競技者表彰・プレーヤー表彰で野球殿堂入りをされたアレックス・ラミレスさん、エキスパート表彰で殿堂入りされたランディ・バースさん、特別表彰で殿堂入りされた故・古関裕而さんの表彰式を、7月19日にバンテリンドームナゴヤで行われたオールスターゲーム第1戦の試合開始前に行いました。

ラミレスさんは2001年にヤクルトに入団。03年に本塁打と打点の二冠を獲得。08年に巨人に移籍し、連続してリーグMVPを受賞。DeNAに移籍後、海外出身選手として初の2000安打を達成するなどの活躍をしました。

バースさんは1983年に阪神に入団。85年には三冠王とMVPを獲得し、チームをリーグ優勝に導きました。日本シリーズでも3試合連続本塁打の活躍でチーム初の日本シリーズ制覇に貢献。シリーズのMVPも獲得しました。翌86年も三冠王に輝いています。

古関さんは1930年日本蓄音器商会（現 日本コロムビア）に入社。36年に「大阪タイガースの歌」（六甲おろし）、48年には全国高等学校野球選手権大会歌「栄冠は君に輝く」、63年に「巨人軍の歌～闘魂こめて」を作曲しました。その他にも野球に関する作曲があり、音楽で日本の野球界に貢献しています。

セ・リーグ、パ・リーグ両軍の選手・監督・コーチがベンチ前に整列し、場内アナウンスでラミレスさん、バースさん、古関さんの長男の正裕さんが大型ビジョンでの映像紹介とともに登場されました。始めに、野球殿堂博物館・榊原定征理事長より記念のレリーフのレプリカが各々に贈られました。

次に、ラミレスさんにはヤクルト時代の同僚であるヤクルト・高津臣吾監督（2022年殿堂入り）から、バースさんには阪神時代の同僚の阪神・岡田彰布監督から、古関さんには球団歌の作曲家というゆかりで巨人の岡本和真選手から、花束の贈呈が行われました。記念撮影に続いての挨拶では、ラミレスさんより「サポートして下さった方すべてに感謝します」との言葉があり、締めにはいつものパフォーマンスで場内を沸かせました。バースさんは「掛布さん、岡田さん、真弓さん、そして川藤さんありがとうございました」と現役時代の同僚への感謝を述べられました。古関さんは「父はスポーツはダメだったが、父ほどスポーツの応援歌を作った音楽家はいないのではないか」とお父様の業績を讃えました。

そして最後に改めて、満員の客席から受賞されたお三方に大きな拍手が送られました。控室では、ラミレスさんとバースさんがお互いの殿堂入りを讃え合い、古関さんがバースさんに「六甲おろし」を聞かせるなど、賑やかな表彰式となりました。ラミレスさん、バースさん、古関さん、この度は野球殿堂入り誠におめでとうございます。



殿堂入りの人々を語る(74)



生原昭宏氏

日米野球の架け橋・アイク生原の生涯（完）

生原伸久（2002年野球殿堂入り） 生原昭宏氏弟

1983年夏、右ひじの靱帯が切れたロッテの故・村田兆治投手（2005年殿堂入り）をドジャースのチームドクター・ジョブ博士に紹介したのもアイク生原だった。村田投手は博士が開発したトミー・ジョン手術（靱帯再建手術）を受けてみごとに復活したが、オーナー補佐として多忙だったアイクはドジャースファンの日系人、トーマス・田山さんを介護役に紹介。田山さんはアイクのかわりに村田投手がロサンゼルスに滞在中、毎日つきっきりで面倒を見た。

大洋のヘッドハンティングをドタキャン

ドジャースと日本野球のために全力疾走したアイクが1度だけ悩み、苦しんだのは大洋球団（現 DeNA）からのヘッドハンティングだった。83年秋、球団社長がオマリー会長に直談判した招聘の条件は球団社長で、申し分のないものだった。オマリー会長は「日本に帰りたいなら帰るなさい。ドジャースは君がいつ戻ってもいいようにイスを開けて待っている」と言ってくれた。それでもアイクが迷い、心を動かされたのは「長年九州に残したままの両親に恩返しができるチャンス」という長男としての責任と呵責だった。

大洋に回答する朝、自宅を出るまで「OK」だったアイクは、ドジャーススタジアムで待っていた大洋の球団社長にドジャース残留の決意を伝えた。のちにオマリー会長は、決断の理由を「オマリー家とドジャースへの恩義と、亡き鈴木惣太郎さん（1968年殿堂入り）がどう思うかという恩人への思いだった」と私に語った。

山本昌広投手（2022年殿堂入り）の奇跡

中日がフロリダのドジャータウンでキャンプを張った88年春、故・星野仙一監督（2017年殿堂入り）がアイクに思いがけないことを頼んだ。「山本昌広は日本に連れて帰っても球界には残れないだろう。だがアメリカで教えてもらえたら化けるかもしれない。アイクさん、面倒見てやってよ。すべて任せるから」

快諾したアイクが目標にしたのは、ドジャースのエース・バレンズエラだった。メキシコ出身左腕のスピードは130キロ台だったが、右打者の胸元を直球で起こし、外角低めにスクリーンボールを落として遅い直球を150キロ前後に見せる技術を誇っていた。早大時代、捕手だったアイクはドジャースのマイナーチームに残った山本投手の投球を毎日受けた。プロテクターもレガースも付けない裸の捕手は、ワンバウンドで脛が紫色に腫れ上がったが「低めに投げろ。新しい武器（変化球）を持って」と呼び続けた。

それまで4年間で0勝の投手は、ドジャースでマスターしたスクリーンボールで1Aリーグのオールスター戦にも出場。8月半ばには星野監督から帰国を命じられ、5連勝して星野中日のリーグ優勝に貢献した。その後も50歳まで投げ続け、通算219勝して野球殿堂入りした。

アイラブユー、ピーター

アイクの最後の仕事は長嶋一茂選手の指導だった。1992年3月、ヤクルトを通じてドジャースに野球留学した一茂選手の面倒を見ていたアイクは5月に突然、体調を崩し、胃がんと判明。シカゴで医師をしていた長男の勧めで6月、日本の慶応大学病院で手術を受けた。術後一時、ドジャースの職場に復帰したが8月、ガンは転移再発する。日本に重体のニュースが伝わると、星野さんや長嶋茂雄さん（1988年殿堂入り）、王貞治さん（1994年殿堂入り）、村田さんらがお見舞いに駆けつけた。この間、オマリー会長は毎日、アイクの病室に通った。私も10月6日、両親や弟妹と渡米し、会長とアイクの感動的な対話を目撃した。

永眠前日の10月25日、出張先のオマリーさんから電話が入ると、アイクは「サンキュー、ピーター。アイラブユー、ピーター」と、消え入るような声で言った。私は生前、アイクが言った言葉を思い出す。「ピーターさんはすばらしいオーナーだ。日本にこんなすばらしいオーナーがいるだろうか」

アイクはロサンゼルス郊外の墓地で、敬愛する先代オーナー、ウォルター・オマリー夫妻の隣に眠っている。芝生の丘のような墓地からは、はるかに祖国日本につながる太平洋が見える。アイクはこの海に自ら架けた日米野球の架け橋を、全力疾走している途中で倒れた。兄より28年も長生きしている愚弟はいま、賢兄の無念を思うと胸が痛む。

知ってほしいこんな資料(99)

2023年野球殿堂入り古関裕而氏 関係資料



◀左上から

- ・全国高等学校野球大会の歌「栄冠は君に輝く」シングル レコード
- ・「阪神タイガースの歌」シングル レコード
- ・「巨人軍の歌」コロシート レコード
- ・「闘魂こめて」～読売巨人軍球団歌～シングル レコード

★「2023年野球殿堂入り特別展」2023年7/26(水)～10/1(日)予定
2023年殿堂入りのラミレス氏、バース氏、古関氏ゆかりの資料を展示中

古関裕而と野球応援歌の関係 ※以下敬称略

2023年に野球殿堂入りした古関裕而は2020年3月から11月まで放送された朝の連続テレビ小説「エール」が記憶に新しい方も多いのではないかと。早稲田大学応援歌「紺碧の空」や、全国高等学校野球大会の歌「栄冠は君に輝く」などを作曲したことはドラマ内でも描かれているためすでに広く知られていると思うが、古関と野球の関わりは意外に早い。

1930年11月29日に古関が丹治嘉市へ送った手紙をみると、「久遠の希望に」(作詞・坂内萬)(注)という福島商業高等学校(以下福商)の野球部応援歌の誕生が確認できる。当時古関21歳、上京して間もないころのことである。

ところでこの手紙のお送り先の丹治とはどのような人物であったのか、簡単に紹介しようと思う。古関には福商時代に深い親交があった教師が二人いるがその一人が、英語と体育の教師、丹治嘉市である。1923年卒の丹治と1928年卒(1年留年)の古関は年も近かった。ちなみにもう一人の教師は国語、漢文の教師である坂内であり、前述の「久遠の希望に」の作詞をしている。二人のことを古関は『福商野球部五十年のあゆみ』の中で話題に出し「若い先生として生徒に大いに人気があった。」と語っている。

丹治は、学生時代、1922年に創設されたばかりの野球部員であり、教師となってさらに野球部に関わるが、ここでは割愛する。(丹治が編集委員長を務めた福商初の野球部史『福商野球部五十年のあゆみ』に詳しい。)福商卒業後の古関は、丹治や坂内に複数の手紙を出しているが、そのうちの一つが冒頭で触れた古関から丹治への手紙である。

先生 本日お手紙及び金一円成正に受け取りました。
電車賃など、いらないのです。
楽譜と送料で37銭でしたから、残金63銭、お預かり致して居ます。又何にか、御入用の時、お通知くださいますれば、すぐ求めて御送りいたします。
会社は日比谷で、銀座は近いですから、いつでも行きます。

「青春の歌」 未完です。
本業の方が忙しいので、外のものに手をつけられません。
今しばらく御まち下さい。
学而の原稿出来たら御送ります。
持地君によろしく。
坂内先生にも

この手紙から古関が、上京する前の慌ただしい時期に母校のために複数の曲を作曲していたことや、丹治・坂内との関係の深さなどが見て取れる。以降数々の大学野球部応援歌を依頼されたり、多くの野球応援のための楽曲を作曲したりするようになるが、初めて野球を意識して作られた楽曲は、母校の恩師丹治へ贈った同じく恩師の坂内作詞「久遠の希望に」であり、福商を中心とした福島での経験が古関と野球をめぐり合わせたと言えるのではないだろうか。

歌詞は、『福商野球部五十年のあゆみ』などの書籍でみることができるが、演奏は未だ聞くことができていない。その後の作曲活動へと繋がる発芽を見ることができるかもしれないのでぜひ聞いてみたいと思う。

学芸員 太田若葉

【注釈】楽曲タイトルの「久遠の希望に」は書籍によって表記の揺れがある。(「久遠の望」/「久遠の希望に」)坂内萬『我が庭の四季』で紹介されている歌詞の中に「久遠(くおん)」「希望(のぞみ)」というルビが確認できるため、本稿では「久遠の希望に」を採用することにする。

【参考】・坂内萬『我が庭の四季』(坂内萬遺稿集)にろく会事務所 1968年

・『福商野球部五十年のあゆみ』福商野球部五十周年記念誌編集委員会編 福商球友会出版 1974年

・『久遠の希望に』福島県立福島商業高等学校創立百周年記念事業実行委員会 1997年

・『若き心：福商百年の歩み』福島商業高等学校創立百周年記念事業実行委員会 1998年



こんにちは図書室です



「オールスポーツ」と「巨人軍二十年史」

今回ご紹介するのは、野口務氏の「巨人軍二十年史」です。新聞「オールスポーツ」で、昭和29（1954）年10月6日から昭和30（1955）年12月5日にわたり連載されていました。

「オールスポーツ」は、昭和25（1950）年1月20日に神港夕刊新聞社より発行されたスポーツ紙です。創刊の経緯は、『大阪日刊スポーツ30年の歩み』（株式会社大阪日刊スポーツ新聞社史編集委員会編 昭和55（1980）年12月発行）より一部引用します。

「…セ・リーグも、ジャイアンツの親会社、読売新聞社が姉妹紙「報知新聞」をスポーツ紙に転向（二十四年十二月三十日）させるが、関西での対抗紙が必要となった。このための推進役になったのが読売新聞社の宇野庄治運動部長とセントラル・リーグ顧問の鈴木竜二（のちにセ・リーグ会長）、同大阪事務所長の小島善平で…（以下略）」

鈴木氏（1982年殿堂入り）、宇野氏、小島氏の話聞いた神港夕刊新聞社は「オールスポーツ編集局」を設け、セ・リーグ系のスポーツ紙として「オールスポーツ」を発行しました。第1号は、スポーツ紙として初めて一般紙と同じ全紙大スタイルで2ページ、天地1段半、1部2円で販売されました。その後、経営は日刊スポーツ新聞社へと変わり、昭和32（1957）年6月1日より「大阪日刊スポーツ」と改題されました。

野口務氏は、明治40（1907）年富山県出身。大学卒業後、大日本東京野球倶楽部に入社。その後、日本野球連盟理事をつとめ、社団法人日本野球連盟常任理事、株式会社日本野球連盟取締役などを歴任した人物で、『巨人軍物語 その十五年史』、『プロ野球読本』などの著作もあります。

この連載は、「オールスポーツ」の球団シリーズ第1編としてスタートしました。連載の第1回で野口氏はこう述べています。

「…どうも歴史を書くというのは、なかなか難事業であって、完結するには相当の覚悟がいるのだが、今年は二十年という巨人軍史にエポックを画する年でもあるし、…中略…筆硯を新たにして十二月二十六日の記念日までに二十年史を完結したいと願っている…以下略」

連載の約90回までは、昭和6（1931）年の米大リーグ選抜チーム来日と、巨人軍の前身となる大日本東京野球倶楽部の誕生のきっかけとなった昭和9（1934）年のベーブ・ルースをはじめとする大リーグ選抜チーム来日を中心に進んでいきます。米大リーグ選抜チーム招聘の経緯や、来日後の試合の様子、当時の新聞などに掲載されたベーブ・ルースの発言などが詳しく書かれており、当室でもレファレンスの際によく活用する資料です。

最終回で野口氏は「…昨年十月六日以来、一年有余にわたった巨人軍二十年史は前史時代を詳述したため、戦後再建されてより今日までの歴史を書くスペースが無くなって、読者に申し訳なく思う…中略…本紙の都合もあって巨人軍史はここの一応ペンを取めることとする。…以下略」と書いています。

連載は巨人軍創立10年にあたる昭和19（1944）年までとなっていますが、戦前と戦中の日本職業野球を知るうえで、非常に貴重な資料です。当室ではこの連載のスクラップブックを所蔵しており、閲覧することができます。ぜひご利用ください。

司書 永沼 里菜子



■図書室の開室時間

図書室は事前予約制です。開室時間などの詳細は、<https://bml.opac.jp/opac/top> でご確認ください。

野球殿堂博物館 トピックス

企画展「WORLD BASEBALL CLASSIC 侍ジャパン、世界一への挑戦」

会期 2023年2月23日(木・祝)～4月23日(日)

WBC開催に合わせ、3大会ぶりの世界一奪還を目指す侍ジャパンを応援する企画展を開催。連覇を達成した2006、2009、ベスト4となった2013、2017年の関連資料を多数展示しました。

東京ドームにて2023大会開始後はチームのご協力により毎試合ウイニングボールを収集し、翌日から公開しました。そして、世界一を達成しチームが帰国した3月23日夜、優勝トロフィー、準決勝、決勝のウイニングボールなどの関連資料を収集し、翌24日から公開しました。

トロフィーのみ28日までの5日間限定の公開で大盛況となり、15,000人を超えるファンの方々にご来館いただきました。



企画展「WORLD BASEBALL CLASSIC 侍ジャパン、世界一への挑戦 優勝記念 特別編」

会期 2023年4月28日(金)～7月9日(日)

侍ジャパンの3大会ぶり3度目の世界一達成を記念して、展示を再構成し、「優勝記念 特別編」を開催しました。過去4大会の資料に加え、今大会で収集した全7試合ウイニングボール、出場全選手着用ユニホーム、大谷翔平選手着用ヘルメット、岡本和真選手使用バット、優勝メダルなど、激闘と歓喜を伝える資料を展示しました。

6月5日からは2023優勝トロフィーの展示を再開しています。これに合わせて混雑緩和のため、8月末日までの期間、ローソンチケットによる時間指定入館券及び時間指定整理券を導入しました。



「野球の学校」2023 イベント開催

2022年より野球殿堂博物館とNPBでは、野球の楽しさ、奥深さを共有することで、子どもたちを中心とした野球ファンの裾野を広げるため、「野球の学校」と銘打って、さまざまなイベントを開催しています。

■トークイベント「2023年の野球規則改正」

日時 5月27日(土) 18:00～19:00

今年新たにNPB野球規則委員に就任した友寄正人氏(前NPB審判長)をお迎えし、2023年の野球規則改正や今後の見通し、日本野球規則委員会の役割等をお話いただくトークイベント(オンライン併用)を開催しました。

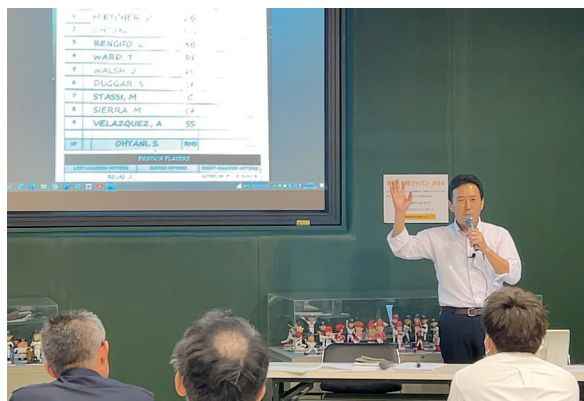


■公式記録員が教える「NPB式スコアの付け方」教室 (NPB式スコアブック付き!) 初級編

日時 6月24日(土) 18:00～19:30

NPB記録データ管理部の山川誠二氏をお迎えし、「NPB式スコアの付け方」教室初級編(スコアを付けたことがある人向け)を開催しました。

公式記録員の業務内容、NPB式スコアの特徴、長所などを説明の後、記録法について試合映像を見ながら解説していただきました。



野球殿堂博物館 トピックス

野球で自由研究!

当館では、夏休み恒例の小学生の自由研究をサポートする「野球で自由研究!」を開催いたしました。(2023年7月21日～8月27日)

【2つの特集展示】

企画展示室では「侍ジャパンの歴史」、イベントホールでは「用具の今昔」の2つの特集展示を行いました。「侍ジャパンの歴史」では、2023ワールド・ベースボール・クラシックやオリンピックなどの関連資料を展示し、侍ジャパンがこれまでどのような試合を繰り広げてきたのかその歩みをご紹介します。

また、「用具の今昔」では、明治時代から最新の野球用具までを紹介し、用具の歴史や進化を追うことができる展示を展開。実際に2023年野球日本代表選手のヘルメットなど最新のバットやグラブなどを体験することができるコーナーも設置しました。実際にヘルメットを被ったりバットを構えたりする子どもたちの様子が印象的でした。

【お悩み相談コーナー】

図書室では、今年も、野球で自由研究をしたい小学生をサポートする「お悩み相談コーナー」を設置。テーマ決めから、調べ方、資料紹介までを博物館スタッフがサポートしました。



【7つのイベント】

今年も外部の講師をお招きし、7つのイベントを実施しました。

▶ 7月22日: 「野球の記録をつけてみよう!」〔対面開催〕

講師/元セ・リーグ記録部長 石井 重夫 氏

▶ 7月31日: 「からだ」をきたえる～ケガに強いからだをつくる～〔対面開催〕

講師/江戸川大学 社会学部 伊藤 彬 講師

▶ 8月1日: バット製作実演〔対面開催〕

講師/ミズノテクニクス 渡邊 孝博 クラフトマン

▶ 8月4日: 「こころ」をきたえる～スポーツや勉強もどんどん上達!～〔対面開催〕

講師/専修大学 佐藤 雅幸 教授(修造チャレンジ)、齋藤 実 教授、齋藤 実ゼミナールの皆さん

▶ 8月5日: ボールはなぜ曲がる?〔オンライン開催〕

講師/中京大学 スポーツ科学部 桜井 伸二 教授

▶ 8月7日: 夏休み審判学校〔対面開催〕

講師/ NPB 森 健次郎 審判長、笠原 昌春 副審判長、柴村 孝康 スーパーバイザー、平林 岳 スーパーバイザー、川上 拓斗 審判員、郡司 真里 審判員

▶ 8月17・18日: グラブ製作教室〔対面開催〕

講師/ミズノ 秋山 裕司 リペアクラフトマン、堀内 昇一 氏

「第8回 野球で自由研究!コンテスト」作品募集!

当館は、今年も、野球をテーマにした小学生の自由研究を対象に、「第8回 野球で自由研究!コンテスト」を開催いたします。これまでに約850人の小学生から応募がありました。

2024年3月頃に受賞作品を発表し、受賞作品を中心に子どもたちの力作・大作を展示する作品展を館内で開催する予定です。応募者全員に参加賞があります。ご応募をお待ちしております。

▼詳しい申込方法等については、ホームページをご覧ください。

<https://baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/>



野球殿堂博物館 維持会員 (2023年8月15日現在・順不同・敬称略)

2023年度維持会費をご入金いただき、有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。

《法人・プラチナ会員 -10年以上継続-》

株式会社シミズオクト、株式会社テレビ朝日、株式会社横浜スタジアム、麒麟ビール株式会社、日本テレビ放送網株式会社、株式会社TBSテレビ、株式会社文化放送、株式会社竹中工務店東京本店、株式会社日刊スポーツ新聞社、一般社団法人共同通信社、株式会社ニッポン放送、株式会社博報堂DYメディアパートナーズ、公益財団法人日本野球連盟、株式会社スポーツニッポン新聞社、株式会社ベースボール・マガジン社、株式会社東京ドーム、株式会社東京ドームファシリティーズ、株式会社関電工、株式会社電通、株式会社報知新聞社、公益財団法人全日本軟式野球連盟、ミズノ株式会社、株式会社みずほ銀行、サッポロビール株式会社、サントリー株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、後楽園事業株式会社、オリンピック興業株式会社、松戸公産株式会社、株式会社ムラヤマ、株式会社毎日新聞社、読売新聞東京本社、株式会社朝日新聞社、株式会社テレビ東京、株式会社兵左衛門、田村駒株式会社、株式会社レッツ、株式会社エポック社、株式会社東京ドームスポーツ

《法人・ゴールド会員 -5年以上継続-》

東京ケーブルネットワーク株式会社、株式会社東京ドームホテル、太平広告株式会社、サンケイスポーツ、株式会社時事通信社、進商事株式会社、株式会社エース企画、株式会社アドサービス、シャープ産業株式会社、株式会社東洋ビルサービス、一般社団法人全日本女子野球連盟

《法人・一般会員 -5年未満-》

株式会社丸和運輸機関、株式会社コナミデジタルエンタテインメント、株式会社読売巨人軍、株式会社 BS日本、株式会社 CS日本、三井不動産株式会社、ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク

《個人・プラチナ会員 -10年以上継続-》

ロバート・クレベンズ、佐山和夫、池井優、永田陽一、川俣茂、明石真和、高井正秀、田口昌裕、山崎眞澄、泉正二郎、景浦隆男、吉田義男、狩野美知夫、林百枝、前藤衛、小川拡、田中進一、齋須将、藤田啓二、松原明、荒田正治、蛭間豊章、大森正樹、古賀裕章、磯部和宏、野上雅之、小尾尚、前田恵、安井敬一、中村真悟、平野禎、灘谷和徳、馬立勝、松田栄、篠原一郎、喜屋武文雄、南部正広、折居教彦、長岡勤、西山克己、伊藤正浩、小碓秋人、井原敦

《個人・ゴールド会員 -5年以上継続-》

永瀬郷太郎、井野修、野崎康之、潮田昌憲、谷口好幸、西勝昭、久岡公一郎、田中雅昭、中本夏樹、高橋和則、鈴木龍一、塚原隆、田名部和裕、内山雅博、津田倫太郎、田中毅、藤田正身、山崎夏生、遠山泰久、古屋晶久、佐々木敏明、森川圭造、廣瀬信一、井上勝利、瀬戸口久雄、菊田康彦、日下正剛、濱田正行、高城謙造、坂下善紀、加藤肇、林一好、盛田房利、岡佳和、前田茂、村岡由隆、松山昌之、大熊哲夫、柴孝也、鱸正明、井上翔太、根本昭児、庄司正信、樋口亘、土屋隆、岡田洋美、増永武義、西本光春、南雲靖夫、佐藤達之

《個人・一般会員 -5年未満-》

鈴木国明、溝口明、海北光正、上村純子、大野敏和、岩村直道、佐藤吉昭、三上毅、石井一夫、伊藤綜一郎、亀田健、小野祥之、影山一義、筆谷敏正、大川大作、菊池正恒、大野幸男、田中正樹、細井一人、高山樹里、岡本邦夫、平井正彦、鴉田隆司、森田清司、大條晋也、瀨上悠人、見米達也、堤 哲、福島良一、松井真、小澤正修、北井誠一、嶋津龍太、浅野光青、樋口忠宏、北原義一、梶 忠、鈴木恵美子、高橋祐一、三宗大介、安田拓人、土屋健太郎、栗山英樹、増田龍太郎、山岸茂幸、山戸隆誠、吉岡勝彦、竹内啓一、上野勝宏、水野哲樹、森田稔一、尾塚智恵、佐藤晃、松田吉隆、向坂雄典、大島正敬、佃圭祐、石黒真奈美、山崎陽斗、工藤三郎、鴨狩順司、榊原定征、倉持修祥、小笠原悠太

《ジュニア会員》

大野慎之丞、島野雅史、山戸勝伸丞、大山翔陸、久保直斗

博物館からのお知らせ

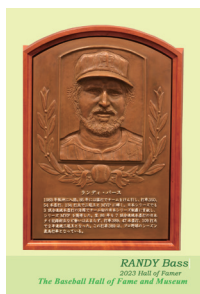
▶博物館公式グッズ

- 2023年野球殿堂入り記念直筆サインボール
アレックス・ラミレス氏、ランディ・バース氏
販売価格：各30,000円(税込) 限定各50台
9月中旬、NPBオンラインショップにて販売開始予定です。



●ポストカード

- 販売価格：各120円(税込)
今年殿堂入りされたアレックス・ラミレス氏、ランディ・バース氏の
ポストカードが新たに加わりました。当館受付及びオンラインショッ
プで販売しておりますので、ぜひお求めください。



●マグカップ(レンガ・うす緑)

- 販売価格：各1,500円(税込)
バットとボールをモチーフにした、当館オリ
ジナルの商品です。重ねられるスタッキ
ングタイプになります。
※この商品は、一つ一つ手作業で色を
塗布しております。そのため、多少色合
い異なる場合がございます。



●ラバーコースター(赤文字・青文字)

- 販売価格：各600円(税込)
今年から販売している当館オリジナルの新商品です。サイズ、値
段ともにご家庭用にも、お土産用にもおススメの商品です。



◀掲載以外の商品も
オンラインショップに
あるよ!



▶第2回理事会(5月26日オンライン開催)

- 議題1. 2022年度事業報告・決算報告・監査報告の承認につ
いて
- 2. 会議日程等の承認について
- 報告1. 業務執行理事の職務の執行状況について

▶定時評議員会(6月12日オンライン開催)

- 議題1. 2022年度貸借対照表及び損益計算書(正味財産増
減計算書)の承認について
- 2. 定款変更の承認について
- 3. 理事及び監事の選任について
- 報告1. 2023年度事業計画及び収支予算について
- 2. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について

▶第3回理事会(6月12日オンライン開催)

- 議題1. 理事長(代表理事)の選定について
- 2. 業務執行理事の選定について
- 3. 次回理事会について

▶計報

1999年野球殿堂入り・中西太氏が5月11日に逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
1985年野球殿堂入り・杉下茂氏が6月12日に逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
2012年野球殿堂入り・北別府学氏が6月16日に逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
当法人の元理事・市野紀生氏が7月19日に逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

▶新任

8月1日付にて塚本順平が業務管理部に着任致しました。

▶退職

業務管理部・玉水甫樹が7月31日付にて退職致しました。

博物館のご案内

場 所	東京ドーム21ゲート右
開館時間	10:00~17:00(最終入館16:30) ※東京ドームでプロ野球が開催される日は、 18:00閉館(最終入館17:30)
入 館 料	大 人 600円 小・中学生 200円 高・大学生 400円 65歳以上 400円
休 館 日	月曜日(祝日、東京ドームでのプロ野球開催日、春・ 夏休み中は開館)、年末年始(12月29日~1月1日)

※休館日及び開館時間は変更する

場合がございますので、
事前に当博物館
ホームページにて
ご確認下さい。



●編集後記 夏休みのイベントにたくさんの小学生が参加してくれました。
イベントに参加した小学生たちが、野球をテーマとした自由研究をしてくれる
といいな~と思っています。

